

アジア経済マンスリー(2011年5月)

～東日本大震災によるアジア経済への影響を考察～

発表日：2011年5月25日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 西濱 徹(03-5221-4522)

<各国経済の現状判断>

	方向性	コメント
中国		景気対策の終了で消費に一段落はあるものの、固定資本投資は堅調に推移しており、景気は底堅い。インフレや資産バブル懸念は燃っており、電力不足は生産の制約要因となっており、景気の重石となっている。
インド		インフレ懸念は燃るが、旺盛な内需を背景に景気は底堅く推移している。金融当局はインフレ抑制を政策の軸に据える方針であり、今後も金融引き締めが進められる可能性は高まっている。
韓国		世界経済の回復を背景に輸出は堅調に推移しており景気は底堅い。しかし、物価上昇による消費下押し懸念のほか、大震災による部材調達懸念は、短期的な景気の下押しリスクとなる。
台湾		大震災による部材調達が懸念されるほか、足元では水不足による工業用水の取得制限が生産の制約要因となっており、景気の重石になる懸念がある。輸出受注にも頭打ち感が出ており、先行きの調整は避けられない模様。
香港		東日本大震災による貿易縮小は景気の重石になる可能性がある。一方、中国本土からの資金流入で資産バブル懸念は燃っており、実質ベッグ制の下で物価抑制は一段と困難になっている。
シンガポール		世界経済の回復による貿易拡大で生産は急回復している。短期的には東日本大震災による貿易への影響は懸念されるが、年後半には復興需要に伴う貿易拡大が景気の追い風になると期待される。
マレーシア		世界経済の回復による輸出の好調で生産が拡大しており、景気は底堅い。今年も景気対策によるインフラ投資の拡大が見込まれ、資源需要の拡大と相俟って、緩やかな景気拡大が続くと見込まれる。
タイ		7月の総選挙に向けて再び緊張感が高まる可能性はあるが、深刻な混乱を回避出来れば、経済への影響は軽微と見込まれる。インフレは消費の重石になりつつあるが、投資は底堅く景気を下支えしている。
インドネシア		物価上昇圧力は高まっているが内需は旺盛であり、景気は底堅く推移している。資源需要を背景に輸出も拡大。政治不信は燃るものの、経済への影響は限定的と見込まれる。
フィリピン		世界経済の回復を背景に海外労働者からの送金は堅調であり、個人消費は底堅いが、足元では物価上昇圧力による消費への影響が懸念される。国内の雇用基盤は弱く、依然として自律回復に向けた課題は大きい。
ベトナム		インフレ率の加速に加え、貿易赤字拡大による外貨準備の減少で通貨ドンの信認は低下している。内需は依然旺盛だが、インフレ抑制に向けて追加的な金融引き締めの必要性が一段と高まっている。

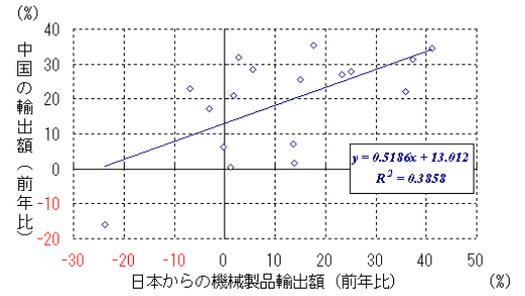
※方向性は、経済の見通しや政治及び政策の動向を総合的に勘案して判断した、前後1～2ヶ月のモメンタムを示しています。

《東日本大震災によるアジア諸国への影響が本格化するのはいくら。短期的には景気を下押ししよう》

- 東日本大震災によるアジア諸国への影響が懸念されているが、その経路としては、①日本の需要縮小でアジアの輸出が下押しされること、②部材供給網の寸断によりアジア諸国の生産にも悪影響が出ること、の2つに類別することが可能である。足元で発表されているアジア諸国の1-3月期のGDP統計によると、世界経済の回復で輸出は拡大しており、海外資金の流入による過剰流動性が内需を押し上げて各国の景気は好調に推移している。一方、4月以降の経済指標では上記要因による影響が徐々に窺われるようになっており、今後はアジア諸国の景気を下押しすることが予想される。
- 部材供給網の復旧は当初想定以上の速さで進行しており、多くの分野で年後半にも大震災前の生産水準となる可能性が高まっている。一方、一部の産業では部材調達が海外に求める動きが出ているほか、生産拠点を海外に移す動きもある。アジア諸国の中でも、電子部品産業の発達した韓国や台湾のみならず、自動車産業が集積するタイや電気機械産業の集積するマレーシアでは、大震災をきっかけに部材産業の育成を強化する動きも出ている。1995年の阪神大震災後、被災地域の一部主要産業は他国に需要を奪われたが、今回も同様の可能性があることに留意する必要がある。

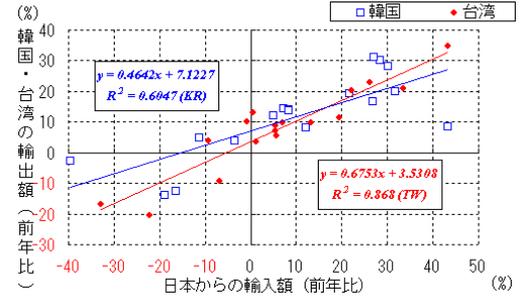
- 域内大国である中国にとって、輸出に占める日本向けの割合は1割に満たないことから、日本の需要低迷による直接的影響は必ずしも大きくない。一方、日本からの輸入と輸出との関係は強く、生産への影響も小さくない。よって、日本からの部材調達に依存する一部の自動車や電気機械などでは短期的に生産が抑制される可能性がある。中国国内では代替部材の増産を図る企業も多く現れており、これは汎用品などを中心にボトルネックの解消を促す一方、わが国が競争力を誇ってきた部材産業にとっては中国市場における存在感低下が危惧される。
- N I E S 諸国においても、輸出に占める日本向けの割合は1割に満たないため、日本の需要低迷がN I E S 諸国の輸出に与える影響は限定的である。ただし、韓国や台湾は対日貿易赤字を抱えるなど部材の多くをわが国に依存しており、わが国からの輸入と輸出の間には正の相関関係があり、特に台湾はその関係が強い。両国とも半導体などの電子デバイス関連のほか、最終製品の組み立て加工における競争力は高いものの、より川上に位置する主要部材や生産設備の多くは依然わが国に負っている。これまでも両国は、川上分野の育成に努めてきたが、震災による日本メーカーの供給難はこれら分野での韓国・台湾メーカーのシェアを高める可能性がある。短期的に台湾メーカーなどでは、日本からの委託生産委託も見込まれ、これは生産の下支えに繋がる一方、わが国にとっては空洞化の契機になると懸念される。
- A S E A N 諸国については、近年E P Aなどを通じて日本との緊密化を進めてきたことから、輸出に占める日本向けの割合が他のアジア諸国に比べて高く、日本の需要低迷による直接的影響を受け易い。ただし、A S E A N から日本向けの輸出のうち、原油やL N Gなどエネルギー資源が相当の割合を占めることには留意が必要である。原発事故によるエネルギー不足でL N G需要の増加が見込まれており、これが日本向け輸出を下支えする可能性はあろう。さらに、A S E A N 諸国は近年中国に次ぐ生産拠点として注目を集めており、日系企業が積極的な進出を図ってきたことから、やはりわが国からの輸入と輸出の間にはおしなべて正の相関関係がみられ、特に輸出依存度の高いマレーシアやタイ、ベトナムでは相関性がより強く現れている。しかし、これらの国でもサプライチェーン問題の影響は短期で終息する見通しが高まっている。特に域内大国のインドネシアは内需依存度が高く、日本の輸入と輸出との相関関係も低いことから、内需の持続的拡大によって景気は堅調を維持すると見込まれる。2015年のA S E A N 共同体設立に向けて域内連携は強化されつつあり、このような外的ショックに対する耐性も徐々に高まると期待されよう。
- 大震災による部材調達問題は短期的に生産などの制約要因になろうが、影響は短期で終息しよう。アジア新興国にとっては分業体制の枠組みの変化を通じてより競争力が高まることも期待され、中期的な成長のモメンタムは大きく変わらないと見込まれる。

中国 対日機械輸入と総輸出の関係



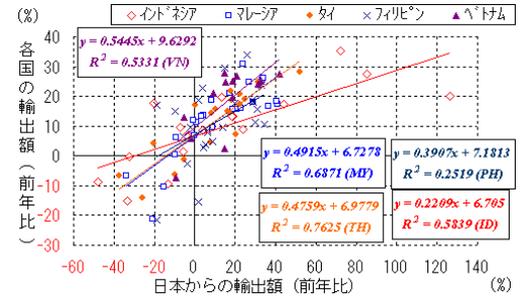
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

韓国・台湾 対日輸入と総輸出の関係



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

ASEAN 対日輸入と総輸出の関係



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜中国主要経済指標＞

▶ 4月の輸出額は前年同月比+29.9%と前月（同+35.8%）から減速したが、前月比は2ヶ月連続で増加しており、単月の輸出額として過去最高を更新した。一方、4月の輸出額も前年同月比+21.8%と前月（同+27.3%）から減速して、前月比も減少した。結果、4月の貿易収支は+114.21億ドルの黒字となり、前月（+0.76億ドル）から黒字幅が大きく拡大した。

図 CH-1 実質 GDP 成長率



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-3 都市部固定資産投資



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-4 製造業 PMI



(出所) 中国物流購買連合会, Markit

図 CH-5 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-6 小売売上高

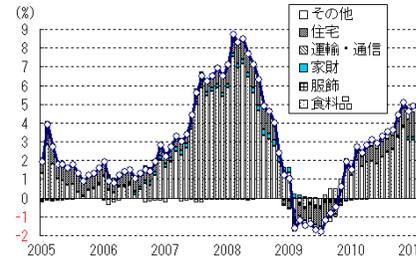


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

格は2ヶ月連続で下落したものの、エネルギーや工業製品価格の上昇は続いており、前月比は+0.1%とわずかに上昇している。先行きもエネルギー価格の引き上げ観測は熾っており、しばらくはインフレ率の高止まりが予想される。

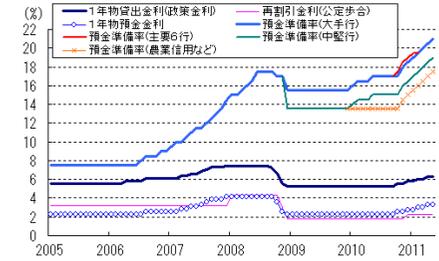
▶ 12日、中国人民銀行は年明け以降5度目となる預金準備率の引き上げを決定した。これにより、大手行の預金準備率は過去最高の21.0%となる。同行は今月、3ヶ月物の手形発行によるオペを再開するなど、過剰流動性に対処する姿勢を強めており、今後も引き締めが強まる可能性はあろう。

図 CH-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-8 金融政策



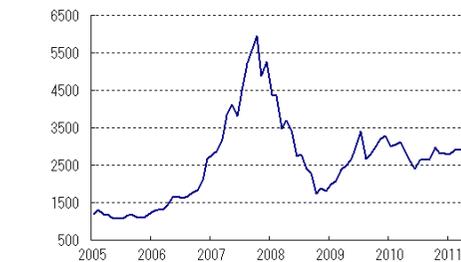
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-12 株式相場(日次)



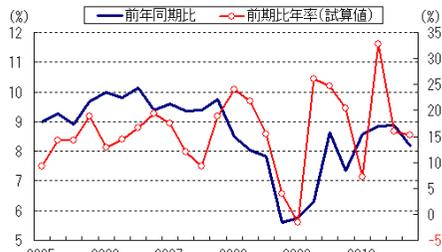
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

▶ 4月の消費者物価は前年同月比+5.3%となり、前月（同+5.4%）から減速した。食料品価

＜インド主要経済指標＞

▶ 3月の輸出額は前年同月比+43.8%と、前月（同+49.7%）から減速したものの、前月比は増加しており、単月ベースの輸出額は最高額を更新した。一方の輸入額は前年同月比+17.3%と前月（同+21.2%）から減速したが、前月比では増加しており、単月ベースの輸入額も過去最高となった。結果、貿易収支は▲56.08億ドルとなり、前月（▲81.04億ドル）から赤字幅が縮小した。

図 IN-1 実質 GDP 成長率



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-3 インフラ動向



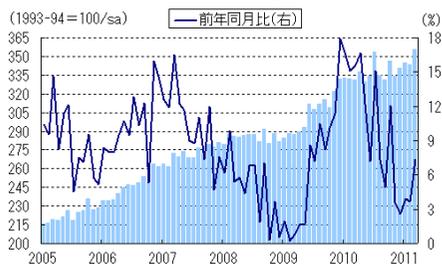
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-4 製造業・サービス業 PMI



(出所) Markit より第一生命経済研究所作成

図 IN-5 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-6 国内四輪車販売台数

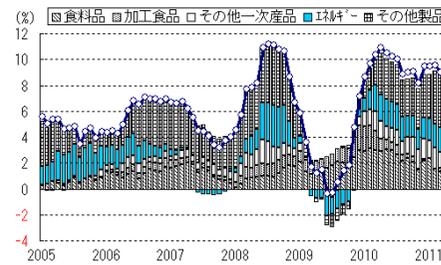


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

▶ 4月の卸売物価は前年同月比+8.66%となり、前月（同+9.10%）から減速した。ただし、前月比は+1.35%と前月（同+0.34%）から上昇ペースが加速している。前月まで2ヶ月連続で下落してきた食料品価格のほか、原油市況の高騰でエネルギー価格も上昇しており、工業品価格も上昇ペースが加速するなど裾野の広い物価上昇が続いている。

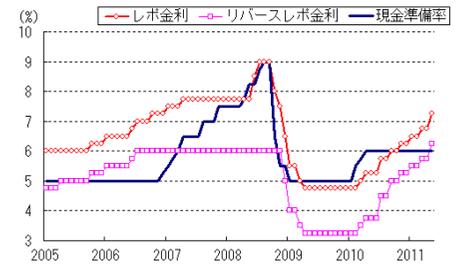
▶ インド準備銀行は今日3日の定例会合において政策金利（レポ金利・リバースレポ金利）の引き上げを決定し、引き上げ幅は市場予想を上回る 50bp とするなど、金融引き締めを強めている。当局は会合後の会見において「目先の経済成長が悪影響を受けたとしても、インフレ抑制を優先する」との考えを示しており、追加引き締めの可能性は高まっている。

図 IN-7 卸売物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-9 為替相場(月次)



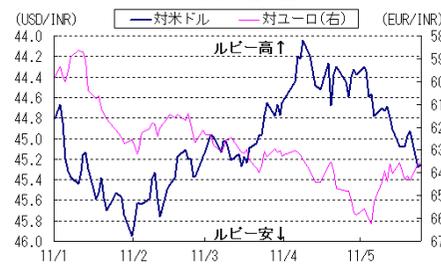
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜韓国主要経済指標＞

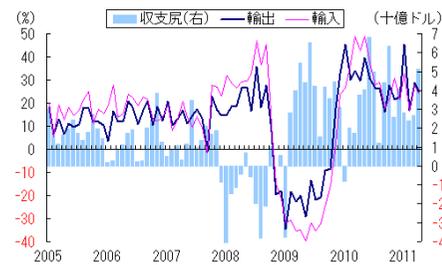
- ▶ 1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率+5.6%と、前期（同+2.0%）から加速した。世界経済の回復による輸出増加で雇用は改善しており、個人消費も堅調に推移した。景気を下支えしてきた資本投資は2四半期連続で減速し、建設需要の落ち込みが重石となった。
- ▶ 4月の輸出額は前年同月比+25.1%と、前月（同+28.8%）から減速した。前月比もわずかに減少に転じ、東日本大震災による部材調達難が影響した。輸入額も前年同月比+23.9%と前月（同+27.6%）から鈍化し、前月比も減少に転じている。結果、貿易収支は+51.39億ドルと前月（+26.75億ドル）から黒字幅が拡大している。

図 KR-1 実質 GDP 成長率



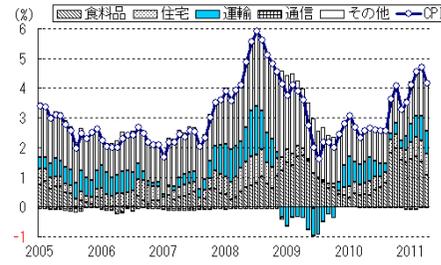
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-3 出荷・在庫バランス



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-4 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-10 株式相場(月次)



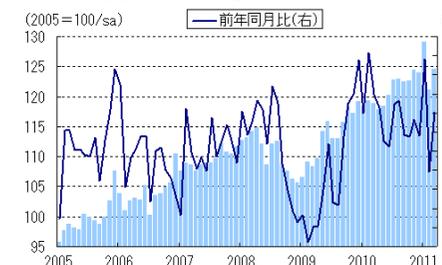
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-5 雇用環境



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-6 小売売上高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

〈台湾主要経済指標〉

- ▶ 1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率+18.97%と、前期(同+1.18%)から加速した。世界経済の回復による輸出増加で雇用は改善しており、個人消費も堅調に推移した。在庫の積み上がりも押し上げ要因となっており、来期に反動が出る可能性はあろう。
- ▶ 4月の輸出額は前年同月比+24.6%と、前月(同+16.7%)から加速した。前月比も増加しており、月次ベースの輸出額は過去最高を更新した。輸入額も前年同月比+25.7%と前月(同+16.7%)から加速したが、前月比は減少している。結果、貿易収支は+29.56億ドルとなり、前月(+17.72億ドル)から黒字幅が拡大した。

図 TW-1 実質 GDP 成長率



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-2 貿易動向



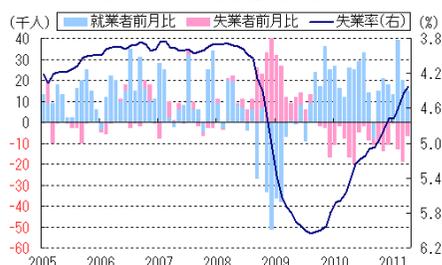
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-3 電子部品の出荷・在庫



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-5 雇用環境



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-4 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-6 小売売上高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

- ▶ 4月の消費者物価は前年同月比+1.34%と、前月(同+1.40%)から減速した。しかし、前月比は+0.11%と前月(同+0.09%)からわずかながら上昇ペースが加速しており、食料品やエネルギー価格の上昇に加えて、海外資金の流入や雇用環境の改善などを背景に内需が堅調であることもあり、物価上昇圧力が高まっている。足元の台湾ドル高の進展により輸入物価の上昇は緩和されており、金融当局は先月4回連続で政策金利を引き上げる決定を行ってきたが、今後も漸進的に金融引き締めを進めよう。

図 TW-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜香港主要経済指標＞

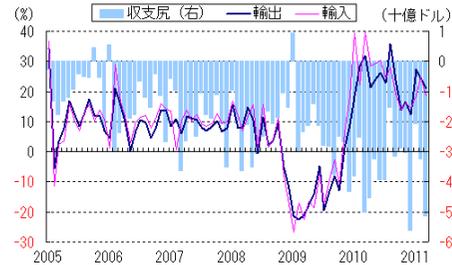
- ▶ 1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率+11.88%と、前期（同+6.26%）から加速した。世界経済の回復による輸出増加で雇用は改善しており、個人消費も堅調に推移した。先行きは東日本大震災の影響で貿易量が下押しされる可能性もあろう。
- ▶ 3月の輸出額は前年同月比+21.5%と、前月（同+24.9%）から減速した。前月比もわずかに減少しており、大震災の影響が出た可能性がある。一方の輸入額は前年同月比+18.8%と前月（同+25.2%）から減速したが、前月比では増加した。結果、貿易収支は▲400.83億HKドルと前月（▲251.14億HKドル）から赤字幅が拡大している。

図 HK-1 実質 GDP 成長率



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-3 来訪者数



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-4 小売売上高



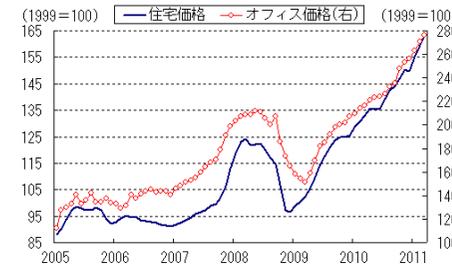
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-5 雇用環境



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

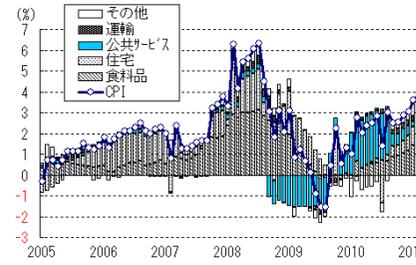
図 HK-6 不動産価格



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

- ▶ 4月の消費者物価は前年同月比+4.6%となり、前月と同じ伸びとなった。前月のタバコ税増税のほか、足元の国際商品市況の高騰を反映して食料品やエネルギー価格にも上昇圧力が掛かっている。ほか、香港ドルは実質的に米ドルとのペッグ制を採用しているため、足元の人民元の対米ドルレートの上昇は輸入物価の押し上げ要因となっている。今後も原油市況の高騰や穀物価格の高止まりが懸念されるため、インフレリスクは続く見込まれるものの、金融政策を通じた独自の対応は限られるため、当局は難しい対応を迫られている。

図 HK-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-12 株式相場(日次)

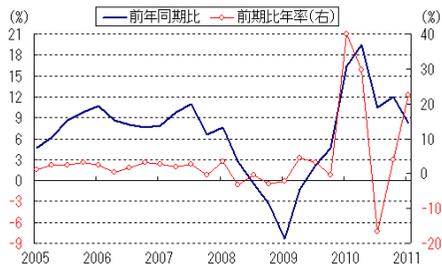


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜シンガポール主要経済指標＞

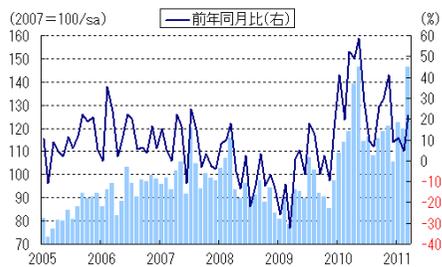
- ▶ 1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率+22.5%と、前期（同+3.9%）から加速した。世界経済の回復による輸出増加で雇用は改善しており、個人消費も堅調に推移した。一方、大型建設投資の一巡で資本投資は大幅マイナスとなっている。
- ▶ 4月の輸出額は前年同月比+5.0%と、前月（同+12.7%）から減速しており、前月比も▲2.2%と前月（同+2.2%）から減少に転じた。4月の輸入額も前年同月比+4.5%と前月（同+17.2%）から減速しており、前月比も▲6.4%と前月（同+17.6%）の反動が出た。結果、貿易収支は+44.41億SGドルと前月（+37.20億SGドル）から黒字幅が拡大した。

図 SG-1 実質 GDP 成長率



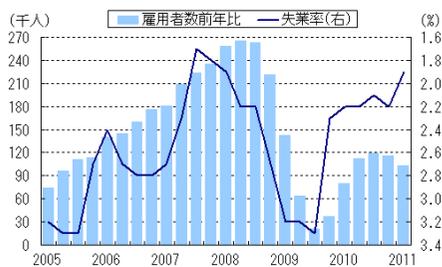
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-3 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-5 雇用環境



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-4 小売売上高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

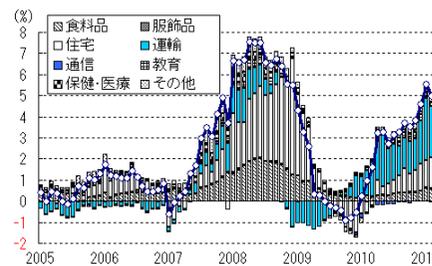
図 SG-6 来訪者数



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

- ▶ 4月の消費者物価は前年同月比+4.5%となり、前月（同+5.0%）から減速した。前月比も+0.01%と前月（同+0.33%）から伸びが鈍化しており、食料品価格の上昇は続いているものの、SGドル高で輸入物価が抑制されて物価上昇圧力が緩和された。

図 SG-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-8 市場金利



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜マレーシア主要経済指標＞

- ▶ 1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+4.6%と、前期（同+4.8%）から減速した。試算値ベースの前期比年率も+7.1%と前期（同+9.8%）から減速したが、世界経済の回復による輸出増加で雇用は改善しており、個人消費も拡大するなど堅調に推移している。
- ▶ 3月の輸出額は前年同月比+7.8%と、前月（同+10.5%）から減速した。なお、前月比は大幅に増加し、単月ベースの輸出額は過去最高を更新した。輸入額は前年同月比+12.1%と前月（同+11.5%）から加速し、前月比も増加して単月ベースで過去最高を更新した。結果、貿易収支は+135.23億リンギと前月（+125.61億リンギ）から黒字幅が拡大した。

図 MY-1 実質 GDP 成長率



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-3 経常収支



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-4 外貨準備高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-5 鉱工業生産



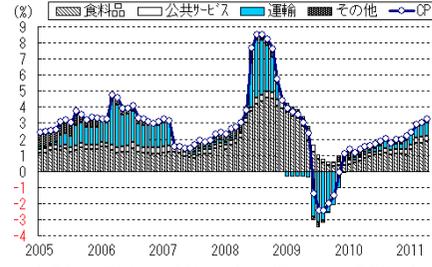
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-6 自動車販売



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜タイ主要経済指標＞

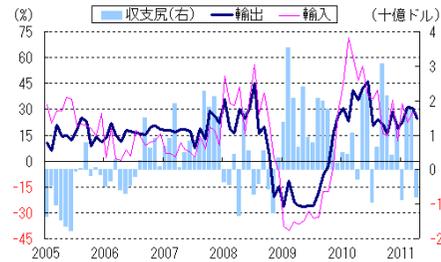
- ▶ 1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+3.0%と、前期（同+3.8%）から減速した。なお、前期比年率では+8.4%と前期（同+5.2%）から加速しており、世界経済の回復で輸出が大幅に拡大したほか、設備投資も増加して景気をけん引した。
- ▶ 4月の輸出額は前年同月比+24.6%と、前月（同+30.9%）から減速した。東日本大震災の影響で日本向けが大きく減少したほか、アジア向けは全般に低調であった。一方の輸入額も前年同月比+27.9%と前月（同+28.4%）から減速した。結果、貿易収支は▲7.97億ドルと3ヶ月ぶりに赤字に転じた。

図 TH-1 実質 GDP 成長率



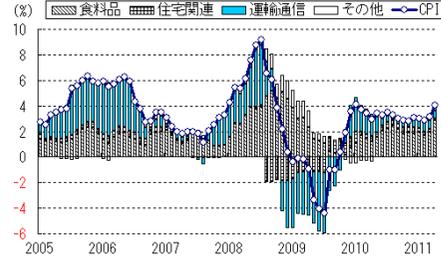
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-2 貿易動向



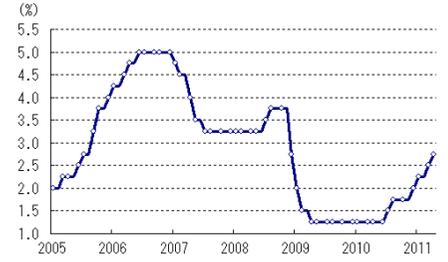
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-3 経常収支



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-4 来訪者数



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-5 民間消費



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-6 民間投資



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

- ▶ 4月の消費者物価は前年同月比+4.04%と、前月（同+3.14%）から加速した。前月比も+1.38%と前月（同+0.49%）から上昇しており、国際商品市況の高騰を背景に食料品やエネルギー価格の上昇が物価を押し上げている。パーツ高は輸入物価を抑制すると期待されるが、金融当局は急激なパーツ高をけん制すべくパーツ売りの為替介入を実施しており、海外資金の流入と相俟って過剰流動性をもたらしている。さらに生産の堅調を背景に雇用環境は改善しており、これも物価上昇要因となっている。コア物価は前年同月比+2.07%と金融当局の定めるインフレ目標（0.5~3.0%）に収まっているが、前月比は+0.72%と前月（同+0.28%）から上昇ペースが加速しており、物価上昇リスクは高まっている。

＜インドネシア主要経済指標＞

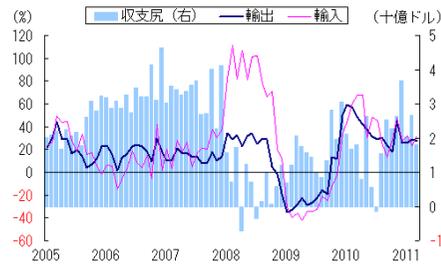
- ▶ 1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.46%となり、前期（同+6.89%）から減速した。試算値ベースの前期比年率も+4.0%と前期（同+10.8%）から減速したが、輸出は堅調に推移しており、内需の旺盛で輸入が増加したことが成長率の押し下げ要因となった。
- ▶ 3月の輸出額は前年同月比+27.5%となり、前月（同+29.1%）から減速したが、前月比は大幅に増加しており、単月ベースで過去最高となった。一方、輸入は前年同月比+32.0%と前月（同+23.7%）から加速し、前月比も増加して単月ベースで過去最高となった。結果、貿易収支は+18.13億ドルと前月（+26.65億ドル）から黒字幅が縮小した。

図 ID-1 実質 GDP 成長率



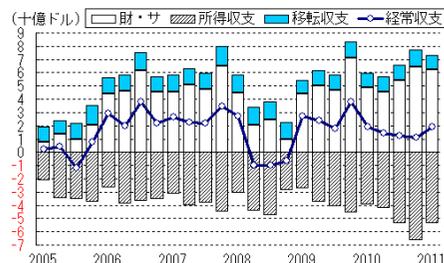
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-3 経常収支



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-4 外貨準備高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-5 鉱工業生産



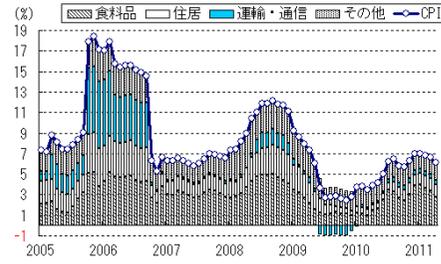
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-6 小売売上高



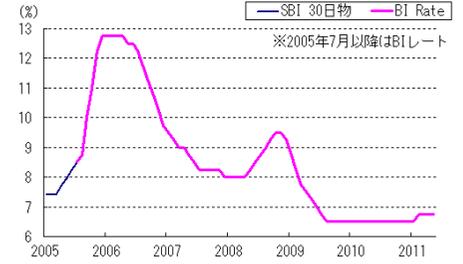
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜フィリピン主要経済指標＞

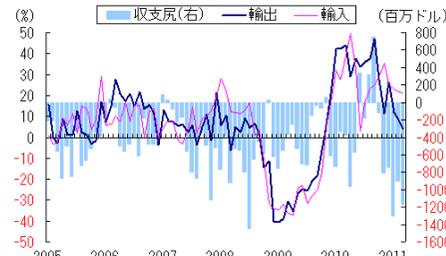
▶ 3月の輸出額は前年同月比+4.0%と、前月（同+8.2%）から鈍化した。なお、前月比では増加しており、春節の影響で中国向けが減少した反動が出た。一方、3月の輸入額も前年同月比+21.2%と前月（同+21.9%）から減速したが、内需の旺盛を反映して前月比も増加して単月ベースで過去最高を更新した。結果、貿易収支は▲11.70億ドルと前月（▲8.96億ドル）から赤字幅が拡大した。

図 PH-1 実質 GDP 成長率



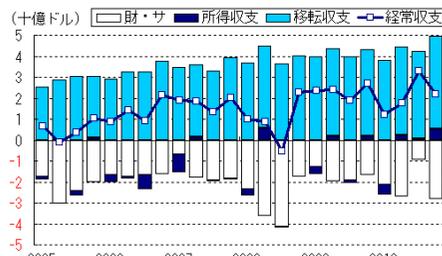
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-2 貿易動向



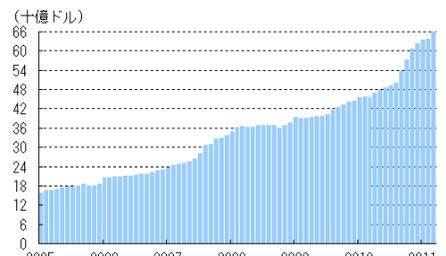
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-3 経常収支



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-4 外貨準備高



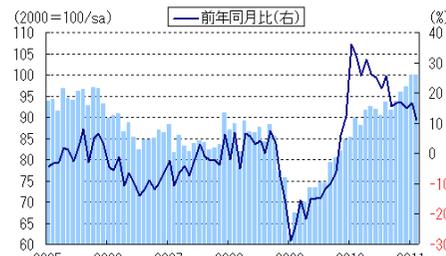
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-5 海外労働者送金



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-6 鉱工業生産

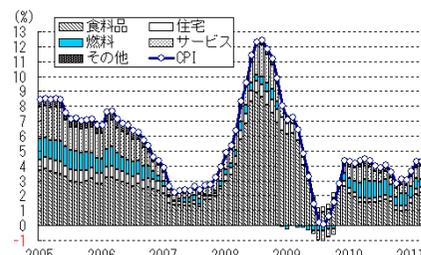


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

▶ 4月の消費者物価は前年同月比+4.5%と、前月（同+4.3%）から加速した。前月比も+0.81%と前月（同+0.29%）から加速し、足元の石油市況の高騰を背景に燃料価格が大幅に上昇するなど、物価上昇圧力は高まっている。コア物価も前年同月比+3.8%と前月（同+3.5%）から加速し、前月比も+1.0%となっている。

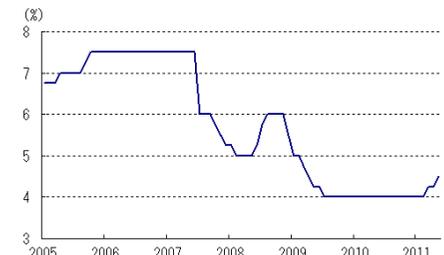
▶ 金融当局は5日、政策金利である翌日物借入金金利と翌日物貸出金利を25bp引き上げ、それぞれ4.50%、6.50%とした。当局は、原油市況の高騰により先行きのインフレ率が当局の目標（3～5%）を上回る可能性を指摘している。さらに、今後も必要に応じて追加的な措置を講ずる方針を明らかにしており、今後も漸進的な引き締めが続けられよう。

図 PH-7 消費者物価(前年比)



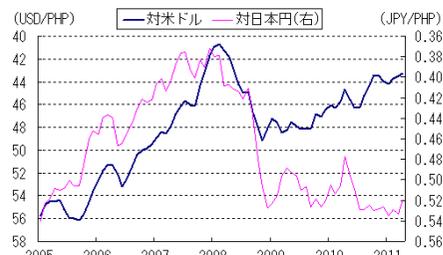
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-9 為替相場(月次)



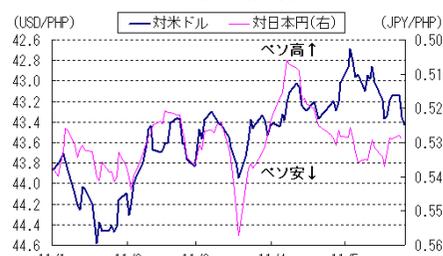
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜ベトナム主要経済指標＞

- ▶ 1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+5.43%と、前期（同+7.40%）から減速した。物価上昇による下押し圧力や海外資金の流入が細ったことから、すべての産業で伸びが鈍化した。しばらくは物価上昇と金融引き締めが景気の重石になると予想される。
- ▶ 4月の輸出額は前年同月比+39.5%となり、前月（同+33.2%）から加速した。外資企業を中心とする輸出の堅調が下支えしている。一方、輸入額も前年同月比+37.5%と前月（同+31.3%）から加速しており、旺盛な内需や生産拡大のための部材調達が押し上げている。結果、貿易収支は▲14.90億ドルと前月（▲14.09億ドル）から赤字幅が拡大した。

図 VN-1 実質 GDP 成長率



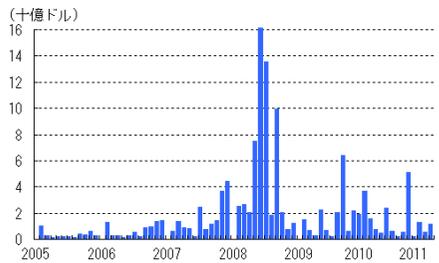
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-3 対内直接投資認可額



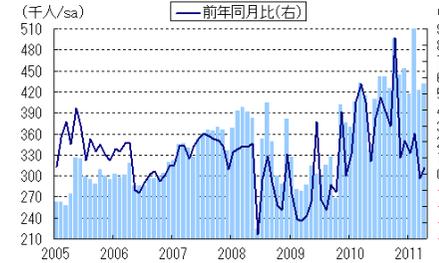
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-5 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-4 来訪者数



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

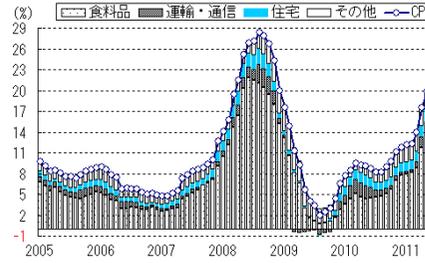
図 VN-6 小売売上高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

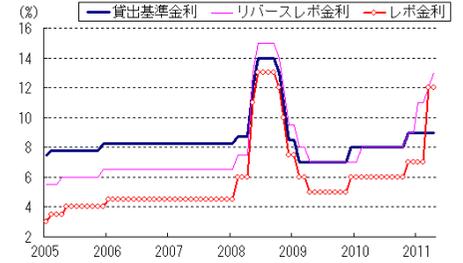
- ▶ 5月の消費者物価は前年同月比+19.8%と、前月（同+17.5%）から加速した。前月比は+2.21%と前月（同+3.32%）から鈍化したものの、原油市況の高騰などを背景にエネルギーや食料品など生活必需品価格の上昇が続いている。足元のドン安も輸入物価の上昇を招いており、さらなる金融引き締めは避けられない。

図 VN-7 消費者物価(前年比)



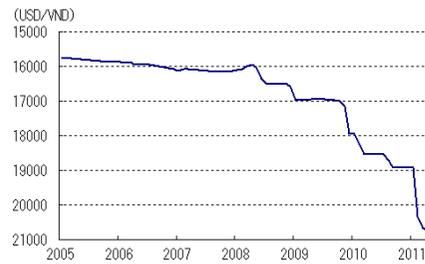
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成